

くまざさ

新らしい百年へ次の一歩

夢を描き、志を抱け

湖陵50期 絵本作家 友弥 (TOMOMI)

私が湖陵高校を卒業してから17年。他
のどの時期よりも鮮明に覚えており、そ
んなにも長い年月が経過していたなど信
じられません。

を恥じるのではなく誇りに思う事の重要
さを理解してきたと思います。
そして、高校生と言えばアイデンティ
ティが確立される時期でしょう。私自身

その頃考えたことは、自分の名前を書面
に刻むことと、人生のどこかでアメリカ
に留学すること。それは漠然としていま
したが、何かを出版するという意味が込
められていましたから、今思えばこの
17年間はその頃考
えた通り歩んでい
る気がします。そし
て、今抱いている新
たな夢は、私の絵本
が世界で読まれる
こと。それは多くの
時間を要するかも
しれませんが、この
志こそが今の私を
前進させてくれる
源です。



私自身遠くの目
標を立ててしまいが
ちですが、目標は短
いスパンで変化し
てもいいし、小さな目標でもいいと思っ
ています。なぜなら、目標があることに
意味があり前進できるからです。自分の
歩むべき道を自らみつけれ、自力で進む事
が出来る人間を創造するには、自分が目

高校時代の一番の思い出
といえば、やはり学内行事
でしょう。クラス全員で揃
えた体育祭のTシャツや行
灯行列。元々何かを創造す
る事に関心を持っていたの
で、その作品と共に私の心
に深く刻まれています。ま
た、行事ならではのクラス
全体の取り組みは、生徒自
ら指揮をとり準備を進め、
その一体感が新鮮に感じら
れました。そのような体験
を通して、自分達の意見を
持ち、それが形になる事の
喜びと楽しさは、いつしか
私の物事に対する姿勢を積
極的かつ建設的にしてくれ
たと思います。小・中学生時代とは違い
行動範囲や交友関係が広がるなかで、学
び得た道徳と感性を融合し個性を引き出
す時期ともいえる高校時代。何かを自分
で意義づけ深めることで、他者との違い

もそうでした。自分に振りかかる些細な
問題を客観視し、自己を受け入れること
でいつの間にか夢が志へと変化したの
を覚えています。そして、人生のタイム
スケジュールをイメージしていました。

もそうでした。自分に振りかかる些細な
問題を客観視し、自己を受け入れること
でいつの間にか夢が志へと変化したの
を覚えています。そして、人生のタイム
スケジュールをイメージしていました。

(2頁に続く)

目次

各地湖陵会	2・3頁
親子三代鉤中・湖陵百年紀(北山さん)	4頁
4人の同窓生校長	5頁
まち育てる学力づくり	6頁

学園だより	7頁
読書案内	7頁
当番期だより・湖陵祭・編集後記	8頁

標を持つ以外にはほかならないと言っても過言ではないでしょう。

そして、私自身が学校教育に望むことは、生徒が何かに関心を抱けるような教育、または抱いている関心をより高める教育であり、家庭教育に望むことは、安定した愛情を注ぎ信頼・安心・自信を育てる教育です。環境であつたり価値観であつたり、目まぐるしく変化する時代であり、いじめ問題もなくならない今の時代。このような険しい道のりを強く生き抜くには、機敏かつ柔軟な対応が必要です。更に、これらを取得する為には何かに関心を持つ事と、安定した愛情を受け自分に自信を持つ事が不可欠だからです。そして秘められた可能性を大いに伸ばし、挑戦し、能力を開花させ、湖陵高校から多くの未来を担う人材が生まれることを期待いたします。

プロフィール

1979年11月23日、釧路市に生まれる。北海道立釧路湖陵高等学校卒業後、進学して看護学士学位を取得。東京大学医学部附属病院第1集中治療室に看護師として勤務する傍ら、書籍コンクールの投稿をきっかけ2012年3月9日絵本「心の鏡」を出版。同年4月25日には第二版が刊行される。その後も看護師として働きながら、休日を利用し絵本作家として活動。14年2月に渡米。サンフランシスコで留学しながら絵本作家としての活動をし、真言宗の弘法大師空海をモデルとした絵本「ソラのあしあと」を出版(市立釧路図書館などにあります)。

各地湖陵会

摩周湖陵会

釧路管内弟子屈町と標茶町の同窓生で組織された摩周湖陵会(岩田寛会長)が、2月22日に標茶町内の三楽荘で開かれました。校歌斉唱などに続き標茶町在住の羽田光雄さん(湖陵5期)が「年に一度、こうして同窓生が集まることのできるのには、ありがたいことです。参加人数が少なくても親睦を深めましょう」とあいさつ、続いて土肥雅則さん(同21期)の音頭で乾杯、和やかな雰囲気の中、思い出話に花を咲かせていました。

星 匠(湖陵30期)

関西湖陵会

今年も我が関西湖陵会の総会は、日本縦断全国湖陵会総会シリーズのトップを切って、去る4月19日、例年と同じく大阪弥生会館を会場に開催。関西在住の同窓生に加えて、釧路、札幌、東京からの参加者も加えて、広く交流、親睦を深めた。今年の総会には、釧路から新会長の島本幸一さん(湖陵19期)、会計長の佐藤文昭さん(同22期)、事務局の鈴木路子さん(同32期)、札幌からは前会長の伊藤拓摩さん(同21期)、東京から副会長の西沢みどりさん(同21期)に参加いただきました。遠路遙々の長旅まことにありがとうございます。

さて、今回は役員改選期にもあたり、2期4年会長をお努めいただいた西田きよしさん(同7期)、平成7年の設立以来一貫して会の運営の中心を為した副会長・幹事長の今井善紀(同11期)が勇退し、後任の会長に小川清至さん(同17期)、幹事長に林正樹さん(同18期)を選出し、残余の役員体制は新会長に一任しました。新体制の元、一層の発展を祈るものです。

今井 善紀(湖陵11期)

新連絡先…小川清至会長072(423)7446

林正樹幹事長0798(41)3846・メール woodymasaki300152712@nifty.com



摩周湖陵会に参加した同窓生のみなさん



関西湖陵会に参加したみなさん



東京湖陵会であいさつする正礼会長

東京湖陵会

第25回東京湖陵会が6月21日に日本青年館で開かれました。黙とう、校歌斉唱に続いて正礼喜久雄会長(湖陵21期)があいさつ、続いて蝦名大也釧路市長(同29期)、釧路湖陵高校の宮下祐司校長が祝辞を述べました。平成26年度の事

業計画や予算などを提案、承認されました。なお、役員改選では、会計幹事の橋本武さん(同34期)に代わり、本間俊一さん(同37期)が選出されました。

懇親会は釧路湖陵同窓会の島本幸一会長(同19期)の乾杯ではじまり、和やかな雰囲気の中、高校時代の話に花を咲かせていました。星 匠(湖陵30期)

札幌湖陵会

第28回札幌湖陵会が7月5日、ホテルロイトン札幌で開かれ、約250人の同窓生が参加しました。定期総会では校歌斉唱に続き、稲村尊史会長(湖陵26期)が「新役員にとつて初めての札幌湖陵会。懐かしい青春時代に戻り、



石井さんの乾杯の音頭で懇親会がスタート

思い出を語り合い懇親を深めてください」とあいさつしました。来賓を代表して釧路湖陵高校の宮下祐司校長が湖陵生の文武両道の活躍を報告したあと「世界に通用する人間に育てたい」、また、釧路湖陵同窓会の島本幸一会長(同19期)は「同窓生と一緒に校歌を歌えるのはうれしい。釧路の同窓会は8月9日、楽しい会にします」と祝辞を述べました。

平成25年度の事業、会計が承認され、石井忠雅さん(釧中31期)の乾杯の音頭で懇親会が始まりました。懇親会では、応援団や元釧路湖陵で教べんをとっていた藤原靖文さん(1971年〜79年)の指導による合唱なども披露されました。次年度は湖陵32、33期が当番幹事です。星 匠(湖陵30期)

稲村尊史会長にインタビュー



稲村新会長

昨年の札幌湖陵会総会で、会長に選出されました。それまでは前会長の伊藤拓摩さん(湖陵21期)のもと、同会を支えてきました。同会を手伝うようになった当時は、「こんなに同窓生がいっぱいとは思いませんでした」と話すとともに「幹事さんのたいへんさが、よくわかりました」と笑います。高校時代、ダグシユで校外の店に昼を食べに行っていたと言います。「これまで先輩たちが築いてきた札幌湖陵会を継承するのはもちろんですが、WebやFacebookなどを使ってたくさんの方の同窓生に呼びかけ、より元気な会にしていきたいですね」と伝統を大切にしながら新しいことにも取り組んでいきたい稲村会長でした。星 匠(湖陵30期)

親子三代 釧中・湖陵百年紀

森越(旧姓・毛綱^{もづな})英子さん、 北山幸徳さん、北山えりかさん

◎釧路における コンビニ店の草分け

釧路市鳥取大通8丁目で税理士事務所を営む北山幸徳さんは湖陵30期(昭和53年卒)。母校を卒業後、高崎経済大から亜細亜大の大学院を経て釧路商工会議所に入所、税務と会計のあらゆる経験を積んで、平成4年に独立開業を果たしたベテラン税理士として、数多くの企業から厚い信頼を寄せられています。

そんな北山さんの父君である故・幸男さんもまた湖陵5期(同28年卒)の卒業生。共栄大通にあった老舗酒店の二代目として、法政大を卒業するや帰釧して家業を継ぎました。ちなみにこの「北山商店」は祖父の代、当時の鳥取村で第一号の酒販免許を下された店としても記録に残されています。そんな酒屋の経営を任された幸男さんは、当時国内各地に出現し始めたばかりのコンビニエンスストアに着目。いち早く業態を転換し、昭和47年に「コンビニエンスきたやま」としてリニューアル



幸徳さん、英子さん、えりかさん(右から)

を果たします。そもそも我が国で最初のコンビニエンスストアが開業したのは昭和44年と言われており、北海道でも同46年に札幌でセイコーマートがオープンしていますが、かのセブンイレブンは、かなり遅れた同49年に第1号店が開店しているそうです。先見の明に長けた人物であったことは言うまでもありません。

店舗はその後、セイコーマートのフランチャイズ店となり、長く地域の人々に親しまれていました。2005年、幸男さんが亡くなられたことにより、惜しまれながらも閉店しています。

◎鬼才と呼ばれた 建築家の系譜

同61年、幸徳さんが結婚した森越ゆかりさんの母君・英子さんは、奇しくも幸男さんと同じ湖陵5期の同期生。ちなみにその珍しい旧姓からもお分かりの通り、湖陵高同窓会館や幣舞中、釧路フィッシュヤーマンズワーフM.O.O、市立博物館や湿原展望台などの設計者として知られる故・毛綱毅曠(本名・

一裕)さん(同35年卒・湖陵12期)の姉であり、ゆかりさんの兄・森越則夫さん(同52年卒・湖陵29期)は十勝で教員として活躍されています。

「釧路での弟の作品は、母親のために同47年に建てた富士見町の住宅『反住器』が有名ですが、実はその3年ほど前に現在の場所に建ててもらった私の自宅『北国の憂鬱』が、最初の商業的な作品のようです」と話す英子さん。当時まだ住宅自体が少なかった緑ヶ岡6丁目で、ガラスを多用した近未来的な家は、かなり目立ったことでしょう。

そんな祖父・祖母・父親の薫陶を受けた3代目のえりかさんは湖陵58期(平成18年卒)の卒業生。進学した藤女子大を卒業後、パレル関係の会社で働いていましたが、故郷の釧路へ戻り、現在は新橋大通の音楽教室で事務を担当しています。

西村 貞広(湖陵30期)

4人の同窓生校長 いつまでも釧路を愛して！

釧路市、釧路町の高校で、釧路湖陵高校出身の校長先生は4人いらっしゃいますので、お話を伺いました。

星 匠(湖陵30期)

司会 現在までの道のりを教えてください。
加賀谷 実家が畳屋で「女性に学問はいらない」と言われました。でも大学に行きたかったので地元の教育大学に入学しました。最初は上士幌、続いて釧路江南、帯広三条、北海道立教育研究所、檜山と網走の教育局を経て札幌東定時制、喜茂別で教頭を務めました。北見仁頃、長沼で校長、現在の釧路東高校は2年目です。

高橋 防衛大を卒業したあと、パソコンを学んでいたこともあり、縁があつて釧路工業高校定時制で実習助手をしていました。防衛大では、教職員の免許をとっていましたのでした。日大の通信教育を5年受けました。東京でのスクーリングにも出席しましたが、家族の協力には感謝しています。29歳で教員となり、釧路商業高校、興部、そして函館商業定時制、旭川商業全日制で教頭、虻田高校で校長、釧路商業高校は2年目です。

石戸谷 航海士を目指し東京水産大学に入学しました。ところが、航海士は視力0.6以上なければいけなかったのです。視力が弱かったため、航海士をあきらめ教員免許、理科を取得しました。最初は十勝のさけ・ますふ化場で4年間勤務、釧路北陽、中標津、札幌北、教頭として函館恵山、室蘭栄定時制、校長として奥尻に赴任したあと、釧路工業です。

宮下 筑波大学を卒業してから釧路北、更別農業、岩見沢農業、後志の教育局など行政を経験してから滝川定時制の教頭、再び北海道教育委員会、苫小牧高専学生課を経て昨年釧路明輝です。高校時代、野球部だったので、野球部の監督をしたくて教員を目指しました。でも、監督ができたのは、釧路北、更別農業の6年間だけでした。

司会 湖陵高校時代の思い出をお願いします。
加賀谷 VOKに所属していました。昼の番組で「軍艦マーチ」を流し先輩から、しこたま怒られました。当時は宿泊研修がなく、鶴居村幌呂でのキャンプは、たくさん

釧路東高校 加賀谷淑子校長(湖陵25期)
 釧路商業高校 高橋 廣一校長(同26期)
 釧路工業高校 石戸谷 亮校長(同27期)
 釧路明輝高校 宮下 聡校長(同30期)



宮下校長

石戸谷校長

高橋校長

加賀谷校長

の生徒が参加していました。

高橋 器楽部で、3年連続で全道大会に出場しました。当時は男子が多くて女子は3〜4人でした。部活の帰り、笛園やローリエなどの喫茶に立ち寄るのが楽しみでした。

石戸谷 昼休み、どこまで遠くに昼を食べることができたかを競っていました。支庁や開発局は当たり前、末広町の泉屋まで行った時は往復とも全力で走りました。

宮下 野球部3年時の春は地区優勝しました。甲子園も夢ではないと思いましたが、夏の大会では地区大会で根室西に負けてしまいました。

司会 以前の生徒と今の生徒の違いはありますか。

加賀谷 湖陵高校の生徒の服装がきっちりしているのには驚きました。当時、男子は長ラン、薄いチョンバッグもはやりだし、リーゼントもいました。でも先生たちは生徒の自主性を重んじていました。今の生徒たちは、自主性が少なく、以前に比べると子どもになっていくようです。それと突っ張りというか、反発心も少ないですね。

高橋 電子メディアの普及なのでしょいか、今の生徒たちは人間関係を築くのがヘタです。たくましさがなくて、ひ弱に見えます。部活動が終わるとまっすぐ家に帰る生徒たちが多いのですが、自分たちのところは、部活が終わってからの、楽しかったですげどね。

石戸谷 型破りな生徒が少なくなりました。失礼かも知れませんが、今は生徒たちの姿を見ただけでは、どこの高校なのか、バッジを見なければわかりません。以前は外見でもある程度分かりました。それと、がっちりとした体格の男子が少なくなりました。

司会 最後に一言お願いします。

加賀谷 釧路の生徒たちには、ふるさと釧路をいつまでも愛してほしいですね。

宮下 湖陵高校の野球部、ぜひ甲子園へ！

まちを育てる 学力づくりを目指して



しのおめ
釧路市立東雲小教諭
山本 真吾
(昭和59年卒・湖陵36期)

春採湖沿いを走る太平洋炭砒の石炭列車の音を聞きながら、高校時代を過ごしました。そして、元の教育大学を出て教師となり、四半世紀を越えようとしています。

5年前「観光・まちづくり教育」を目的としてNPO法人を立ち上げました。観光・まちづくり教育とは、まちのことをよく理解する教育、まちのことを誇りを持って他人に語れる教育、まちの伝統や文化を身につけさせる教育、まちは家族、友人をいつまでも大切に育てる教育、まちがいつまでも豊かであり続けるために必要な学力を

持った子を育てる教育です。

私にとって、釧路というまちは今までもこれからも、多少姿は変えながらも引き続きのものと感じていました。しかし、かつて「街」と呼ばれた北大通りは、シャッター通りとなり、小中高等学校は統廃合され、市内には空校舎が点在しています。人口減、少子高齢化の波は、釧路にも確実に、しかも加速度的にやってきました。

今年5月、日本創世会議の人口減少問題検討部会は、全国約1800の市区町村のうち896が、2040年には消滅する可能性があるとしました。その896の1つに釧路が入っています。釧路は衰退どころか消滅の危機にあるということなのです。このような状況にあって、自分は今まで通りの生き方で良いのだろうかという疑問がNPO法人を立ち上げたきっかけでした。

昭和を代表する教育者・東井義雄は「村を捨てる学力」「村を育

てる学力」と言いました。「村を捨てる学力」とは、村に夢や希望を見い出せず、村から出ていくための学力。「村を育てる学力」とは、村を愛し村を育てるような学力です。「観光・まちづくり教育」は、「村を育てる学力」を育てるための教育です。

「観光・まちづくり教育」を進めるためには、私自身がまちに出なければならぬと考え、「地域に飛び出す公務員」をモットーに、休日に釧路根室地方を中心に「親子土曜学校」を開催したり、お祭りやイベントに参加しています。

また、志を同じにする人たちとともに「くしろ子ども未来塾」を立ち上げました。「くしろ子ども未来塾」とは、毎月1回市内のコミュニティセンター全館を借り切り、子どもがそれぞれの部屋や体育館で国語や算数の学習、跳び箱、鉄棒、茶道、華道をはじめ15の講座を自由に受講できる「習い事のデパート」です。1年間で、のべ1200名の子どもが参加する活動に成長しました。講師のみならずすべてボランティアです。こちらの方もまた、釧路の未来を憂い、何かをしなければならぬと思っ

ている同志です。
江戸時代に「稼ぎ三割、仕事七割」という言葉がありました。「稼ぎ三割」とは、商売や給与につな

がる業務のこと。「仕事七割」とは、地域コミュニティへの奉仕活動のことです。地域に飛び出してみてわかったことは、「稼ぎ三割、仕事七割」を地で行く人たちがたくさんいるということです。こういった人たちに支えられて今の釧路があるのです。まちはそこにあるものではなく、そこで作られてきたものということを感じずかしながら今頃気づいた次第です。

人口減、少子高齢化の流れはそうそう簡単には止められないでしょう。そうであるならば、例えば人口が10万人になっても幸せだと感じるまちを作ればよいのです。人口減、少子高齢化の中でも夢や希望のあるまち作りは可能はずです。

釧路にいる湖陵同窓生のみならずとは、何かしら共に地域貢献活動ができる機会があればと思います。また、現在釧路を離れているみなさんには、ご自身が釧路に帰郷するだけでなく、友人知人に「釧路はいいまちですよ。是非遊びに行ってみてください」と勧めたり、ふるさと納税をすることを僭越ながらお願いいたします。

私たちの子ども、孫、そのまた孫の世代まで釧路、母校があり続けることを願いつつ。

だより

同窓生の皆さまいかがお過ごしですか。「くまざさ」65号発刊に当たり、昨年からの学校の様子を簡単にお伝えします。

〈8月〉

・統一学校説明会

本校体育館を会場にして、湖陵高校が参加を要請した道内外約70の大学・短大などが参加し、行われました。各大学のブースに積極的に足を運び熱心に質問する生徒の姿が見られました。昨年度は第11回目、今年も8月末に第12回が予定されております。一つの高校が主催して、その高校が求める大学に参加してもらおう、このような説明会が定着している例は全道でも数少ないそうです。

〈9月〉

・新人戦・高文連

9月から3月にかけて、高体連の新人戦や高文連の大会が行われています。多くの部活動が全道大会に進出しました。なかでも、放送局（VOK）の木野下さん（2年）は高文連放送コンテストの朗読部門で3位となり、翌年7月末に茨城県で行われる全国高総文祭への出場を決めました。

〈10月〉

・見学旅行

2学年の全6クラスが2班編成

で出発しました。4泊5日の日程で、京都・奈良・東京方面へ行ってきました。

〈1月〉

・センター試験

今年も205人が受験しました。試験当日は受験生徒の激励のため、朝早くから極寒の中、会場の釧路公立大学前に立つ多くの先生方の姿が見られました。

〈3月〉

・第66回卒業式。236人の生徒が湖陵の誇りと夢を胸に、学窓を巣立ってゆきました。

・高校入試

理科1問口、普通科5問口の計6問口の募集です。

・大学合格発表

国立公立大医学部医学科合格七名など110名の現役生が国立公立大に合格し、私大においても多くの現役生が難関私大に合格しました。

この中で国立公立大医学部医学科合格7名という数字は、しばらく無かった数字ですが、平成20年に北海道から指定された医進類型指定校の取り組みが成果として現れてきたものと言えらると思います。

・教職員異動

間副校長を始め7人の教職員が異動・退職しました。中でも事務職員の小谷内さんは、22年の長きにわたっての勤務でした。

転出された皆さん、湖陵高校のために力を尽くしていただきどうもありがとうございました。

〈4月〉

・教職員異動

赤津副校長を始め7名の新任教

職員を迎えました。平成26年度入学式 243名の新入生が夢と希望を胸に入学しました。

・宿泊研修（1年生、川湯温泉御園ホテル）

・湖陵の日（4月26日）

P.T.A総会と授業公開・進路講演会・学級懇談を併せ、休日に行われております。また、夜にはキヤッスルホテルに会場を変え懇親会が開催され、多くの父母と教職員が参加し盛大に開催されました。

〈5月〉

・教育実習（6名の卒業生を迎えました）

・高体連釧根支部予選

ほとんどの運動部が団体または個人で全道大会に進んでいます。文化系ですが放送局（VOK）

もNHK杯の全道大会に進出しております。

〈6月〉

・高体連全道大会

全道大会においては各クラブともよく健闘しました。

その中で、陸上部の五味さん（3年）は女子円盤投げで7月末に山梨県で行われる高校総体に出場します。

また、部活動ではありませんが新井さん（1年）が女子背泳ぎで八月中旬から千葉県で行われる高校総体に出場します。

文化系では放送局（VOK）が

東京で行われるNHK杯全国放送コンテストに出場します。吉田さん（3年）がアナウンス部門で、

木野下さん（3年）、大島さん（2年）が朗読部門で出場します。木野下さんは茨城県で行われる全国

高総文祭にも北海道代表として出場します。

〈7月〉

・野球全校応援

甲子園につながる夏の大会で、野球部がブロック決勝に進出したので全校応援をおこないました。惜しくも釧路工業高校に1対3で破れましたが、野球部の熱い戦いに、応援団、チアリーダー、器楽部、野球部控え選手が一体となり、全校生徒をリードする形で統制のとれた、しかも盛大な応援を送りました。

以上簡単な内容となりましたが、ご容赦下さい。また、今後とも母校のため、後輩のためによりしくお願ひします。

澁谷 倫之（湖陵26期）

読書案内

正木先生の風の旅 正木 洋 著

正木洋（まさき・よう）先生は、1986年4月から釧路湖陵高校で国語担当の教師。前任地の胆振管内伊達高校時代、北電伊達火力発電所建設を巡り、当時日本初の環境権保存を唱え、札幌地裁への提訴で中心的な活動をされました。10年にわたる市民運動に疲れ、釧路湖陵高校勤務。正木先生は1931年東京都出身、旧制都立大泉中、旧制弘前高を経て1956年北大文学部を卒業しました。1988年白水社発行の同書には、54歳で釧路愛国自動車学校に入学するも、4カ月にもわたる涙ぐましい悪戦苦闘の末に免許取得するまで抱腹絶倒の筆致。愛車を駆って北海道、とりわけ自然豊かな道東の四季折々の風情・人情を巧みに温かく表現しています。本の帯に「野鳥のさえずりに耳を傾け辺境に人知れず咲く花々に感動し、旅の宿での美酒に酔う。いささか世を憂いつつも、瑞々しい感性を失わず、ユーモアと含羞を交えて綴る滋味あふれるエッセイ」とあります。NHKラジオ1989年「私の本棚」で数ヶ月の全国放送を聞いた私は、正木先生の人柄に惚れました。本で伊達高校時代の教え子に温泉教授こと松田忠徳・札幌国際大学教授との交流にも触れています。 田巻 恒利（湖陵18期）

当番期だよ

1990年に卒業した我々42期より、総会の開催にあたり諸先輩からのお知恵やお志、ご配慮いただきましてこと御礼申し上げます。

特定の匂いがそれにまつわる当時の記憶や感情を呼び起こす「ブルースト効果」という現象があります。同窓の話でも、香り・臭いにまつわるエピソードが数多く出て、鮮明な記憶が呼び起こされること度々です。たとえば木造校舎の床に浸みこんだワックスの匂い、トイレのアンモニア臭、部室や柔道場のえもいわれぬ青春と汗の香り、生物実験室のアルコールとカエル?の臭い。化学実験室では表現のしがたい危険な香りがありました。教室では壁や窓の隙間から草木の薫りが染み、時には雪が舞い込み、室内にいながら四季を感じたものです。冬には石炭ストーブに干した防寒具が湯気を上げ、ついに焼け焦げた臭いを教室に充満させて大騒ぎ。誰が持ってきたのかストーブで炙った氷下魚やスルメの香りも強烈でした。チョコクの匂い、学祭の行灯づくりで使った「でんぶんりのり」の匂い、ファイアストームの大きな炎が放つ紙や木が燃える香りは、結ぶ異性の手から伝わる体温と、炎

のせいばかりとは思えない類の火照りを思い起こさせます。

近頃はFacebookをはじめとするSNSで同窓同士のコミユニケーションが容易になりました。全国、世界各地で活躍する私達湖陵生も、ネットワークの中です。言葉や画像を積極的に交わしています。テキストでは香りを伝えることができませんが、私たちが日頃感じた「香り」をきっかけに当時の鮮明な記憶を目覚めさせ、郷

愁の念にかられてSNSで熱く語る場面も少なくありません。SNSを通し同期の横軸の連携が強まり、若い世代とは年齢を超えた縦軸の繋がりが広がっています。特に先輩の活躍する姿と過去のエピソードは若者に愛校精神を育む金言となつていきます。人と人の繋がりが電子化される今日だからこそ「香り」をきっかけにした同窓の絆の深め方も良いと感じます。

金子 哲俊(湖陵42期・元生徒会長)

今年も「燃えた」湖陵祭

今年の湖陵祭は7月18日から3日、「奏」をテーマに行われました。1日目は開祭式に続いて歌合戦で盛り上がりました。その夜は伝統の行灯行列で、中心街を元気よく練り歩きました。2、3日目は一般公開。多くの同窓生も訪れ、高校時代を振り返りながら楽しんでいました。(撮影・行灯行列：宮川英司さん(湖陵32期)・一般公開：西村貞広編集委員(同30期))



伝統の行灯行列



子どもたちも真剣(一般公開)

編集後記

くまざさ第65号の編集作業も大詰めを迎え、まもなく終了となります。事務局は栄屋旅館の一室を拝借して打ち合わせの編集会議などに使わせていただいている。末広町2丁目にある昭和の味がする情緒漂う旅館なのです。使い込まれた廊下や階段の手すりが窓が何とも言えない風情を醸し出しています。幣舞橋のすぐたもと、鉦路川の四季を感じ取れる場所なのです。対岸には鉦路を代表する風景の一つ旧日本銀行鉦路支店の白い建物が川面に映えて美しい姿を見せています。ここで一つの課題。幸町に移転後、今は空き家となったこの建物、市民は保全と活用のすべを模索中で頭を悩ましています。そこで先輩並びに同窓生諸君の智慧と

妙案を期するところです。

増子 正樹(湖陵20期)



増子正樹作

鉦路湖陵高校

〒085-0814
鉦路市緑ヶ岡3丁目1番
TEL(0154)43-3131
ホームページ
<http://kushiro-koryuohp.inoseek.co.jp/>

くまざさ編集委員会

- 同窓会会長 島本幸一(湖陵19期)
- 同窓会会計長 佐藤文昭(湖陵22期)
- 編集委員長 星 匠(湖陵30期)
- 編集委員 川端紀一(湖陵11期)
- 編集委員 増子正樹(湖陵20期)
- 編集委員 澁谷倫之(湖陵26期)
- 編集委員 西村貞広(湖陵30期)
- 編集委員 須貝喜治(湖陵49期)
- 編集事務局長 田巻恒利(湖陵18期)

くまざさ編集委員会

〒085-0014
鉦路市末広町2丁目4番地
栄屋旅館内
TEL0154 (23) 0241
手動切替FAX
0154 (23) 0242